

PCS-7801

28 MHz 10W FM TRANSCEIVER

PCS-7801H

28 MHz 50W FM TRANSCEIVER

PCS-7501

50 MHz 10W FM TRANSCEIVER

PCS-7501H

50 MHz 50W FM TRANSCEIVER

■ [N] タイプ: ナロー, ワイド切替オプションユニット付

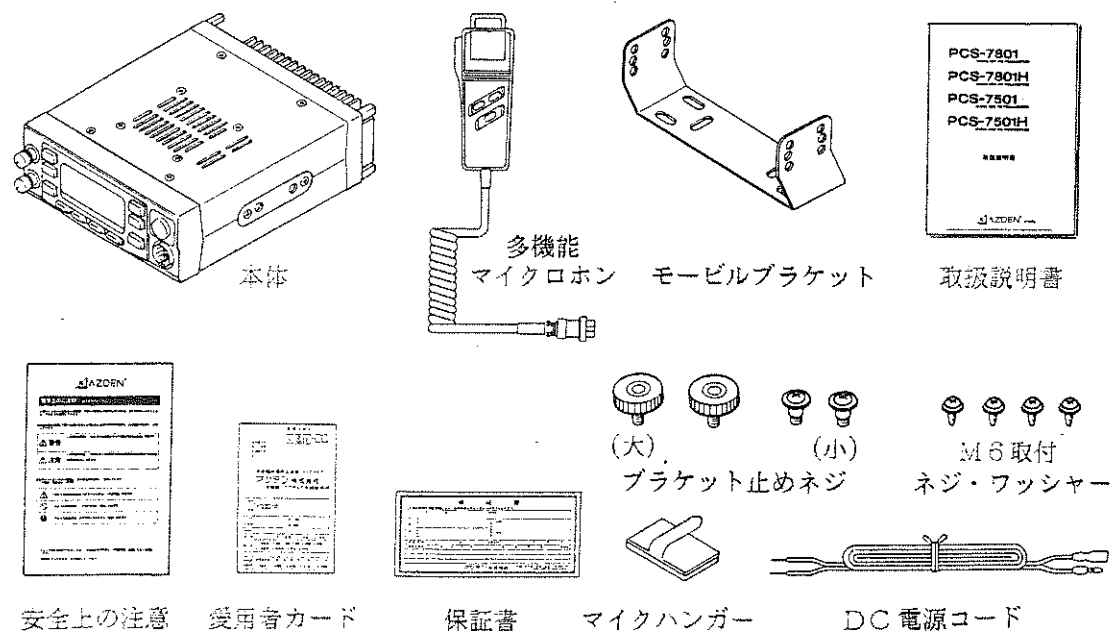
取扱説明書

ご使用前に必ず本書と「安全上のご注意」(別冊)をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目 次

本機の特長	1, 2
定格	3
各部の名称と機能	4, 5
受信	6
初期設定	6, 7, 8
メモリーチャンネルの使い方	9, 10
トーンコード表	10
送信	11
テンポラリーメモリー	12
スキャン	12
プライオリティー	13
リバース	13
バックアップバッテリー	13
送信機系統図	13
ブロックダイアグラム	14, 15, 16, 17
モービルブラケットの取り付け図	18
アフターサービス	18
無線局申請書(工事設計書)記入事項	18

セットの構成



本機の特長

この度は、PCS-7501(H)、PCS-7801(H)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。

■ 複数のレピーター対応ができます。

メモリーチャンネル(20+1 CH)すべて、送信、受信、送信トーン、受信トーンスケルチの周波数を個別に設定できます。

別売DTMFマイクDH-50と組合せると各種コントロール運用などができます。

■ 送受信

・周波数範囲は、PCS-7501(H) 50.000~53.995(受信54.000)MHzの間です。
PCS-7801(H) 28.000~29.695(受信29.700)MHzの間です。

・初期設定を前面キーの操作で行うことができます。

・初期設定の値は、変更することができます。

初期設定の種類	変 更 で き る 範 囲
トーンデコーダー	38波
トーンエンコーダー	38波
スキャンモード	ディレイスキャン6秒、ホールドスキャン3秒又は6秒
ステップ幅	5・10・15・20kHz
シフト幅	任意に周波数を設定可(送信周波数範囲内5kHzステップ)
メモリー内容	任意に周波数を設定可 (送受信周波数範囲内)

・送信出力は、HI(10W)とLO(1W)の切り替えができます。

※[H]50Wモデルは、HI(50W)とLO(5W)の切り替えになります。

・シフト方向が $\boxed{+}$ $\rightarrow$ $\boxed{-}$ $\rightarrow$ “シフト無し” の切り替えができます。

・トーンのON・OFFができます。

・受信周波数と送信周波数を逆にすることができます。

■ ナロー対応

PCS-7801[N]/7801H[N]

PCS-7501[N]/7801H[N]

[N]タイプは、ナロー、ワイド切替オプションユニットが組み込んであります。狭帯域、広帯域どちらにも対応できます。(ノーマルタイプは、広帯域です)

■ メモリー

- ・メモリーはAバンク10チャンネルとBバンク10チャンネルの計20チャンネルあります。
- ・テンポラリー（一時的）メモリーとして1チャンネル別にあります。
- ・20チャンネルのメモリーは各チャンネルごとに

受信周波数
トーンデコーダー周波数
送信周波数
トーンエンコーダー周波数

をメモリーできます。

トーンデコーダー： トーンスケルチの復調回路で、運用のためには、オプションのトーンスケルチユニットを組み込む必要があります。

トーンエンコーダー： 送信変調に、トーンスケルチやレビーターを動作させるためのトーン信号を乗せる回路で、本機には内蔵してあります。

- ・メモリーAバンクの0チャンネルをワンタッチで呼び出すことができます。
- ・AバンクとBバンクの切り替えができます。
- ・テンポラリーメモリーの書き込み・呼び出しが簡単にできます。

■ スキャン

各種スキャン（自動的に受信チェックをし、次のチャンネルに移る動作）ができます。

- ・A・B各メモリーバンク8と9の間の周波数をスキャンするプログラマブルスキャン。
- ・メモリーチャンネル0～9の間をスキャンするメモリースキャン。
- ・メモリースキャンはA-B連続、A、又はB単独スキャン。
- ・スキャンモードは、ディレイスキャンとホールドスキャンがあります。

■ プライオリティー

- ・どこかの周波数を受信していても、約4秒に1回メモリーAバンク0チャンネル（MA0）の周波数の入感状態を監視することができます。

注意

- ・本機の定格電圧は、直流13.8Vです。誤って直流24Vや交流100V電源に接続しないよう注意して下さい。
- ・アンテナを接続するための同軸ケーブルは50Ω系のものを使用して下さい。
- ・マイク端子には、直流13.8Vやマイコンから直接配線されている端子がありますので、ショートさせないよう注意して下さい。

*トーンスケルチ運用は、別売のトーンスケルチユニット（TE-12）が必要です。

定格

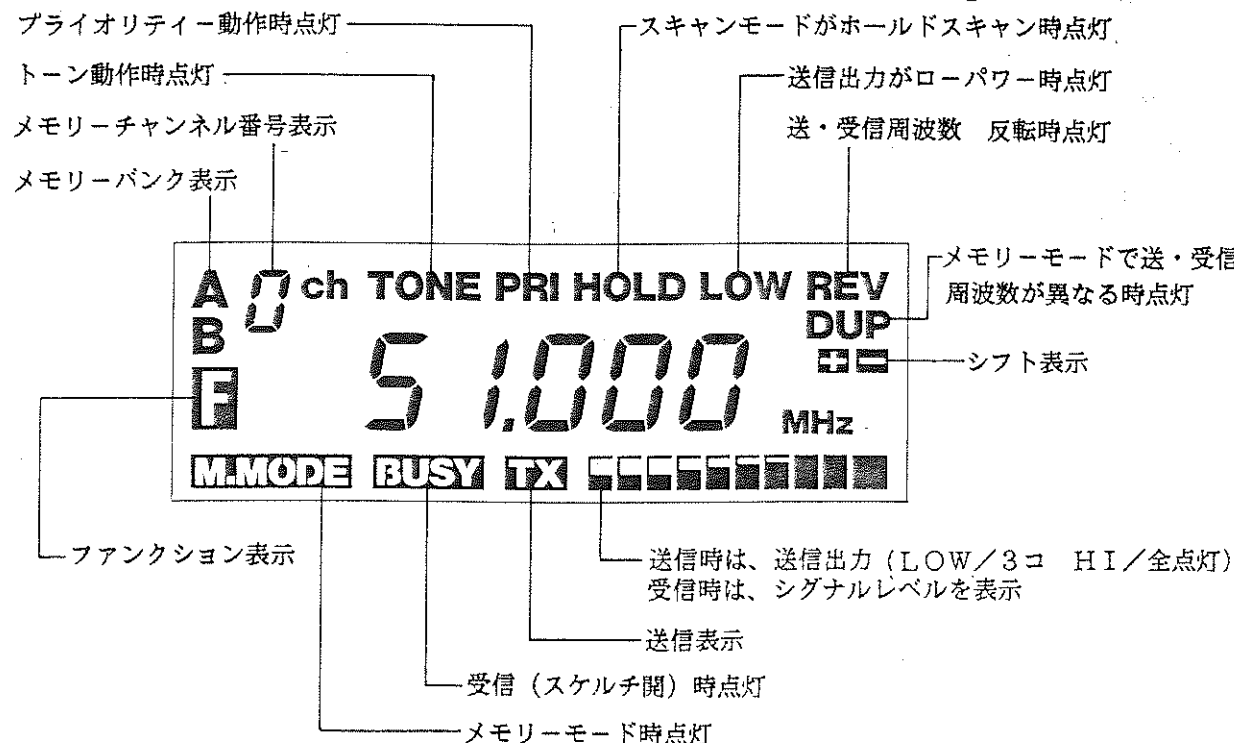
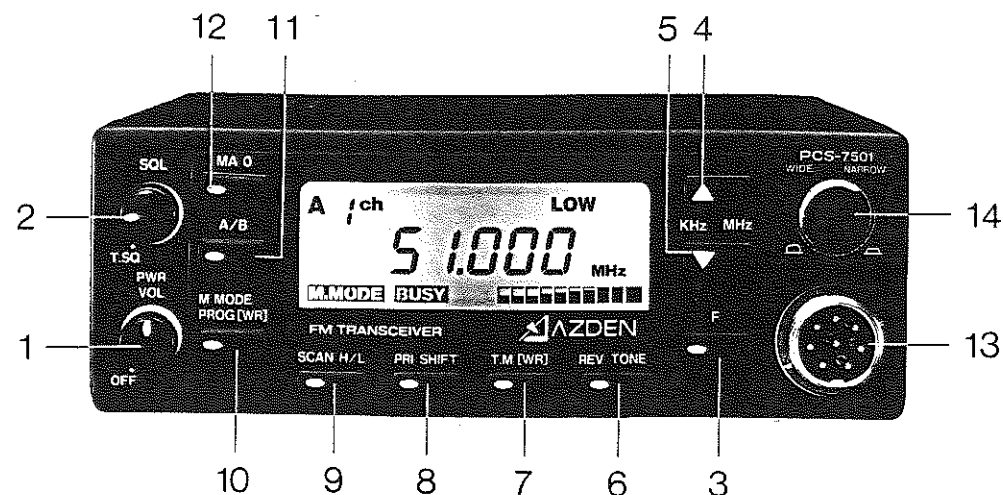
機 種		PCS-7501	PCS-7501H	PCS-7801	PCS-7801H	
一 般 仕 様	周波数帯域	50.00~54.00MHz		28.00~29.70MHz		
	使用温度	-10℃~+50℃				
	電源電圧	DC13.8V ±15%				
	接地極性	マイナス接地				
	消費電力	0.3A MAX				
	受信時					
	送信時	2.5A	10A	2.5A	10A	
送 信 部	送信出力	HI	10W	50W	10W	50W
		LO	1W	5W	1W	5W
	変調方式	リニアタンス周波数変調				
	最大周波数偏移・*	±5kHz [±2.5kHz]				
	スプリアス	-60dB以下				
	空中線インピーダンス	50Ω				
	電波型式	F3				
	使用マイクロホン	500Ω ダイナミック型				
受 信 部	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン				
	中間周波数	第1	16.9MHz			-
		第2	455kHz			
	受信感度	0.19μV(12dB SINAD)以下 S/N=30dBの時のRF入力1μV以下				
	選択度	-*	±6kHz [±3kHz] 以上/-6dB ±15kHz [±9kHz] /-50dB			
	低周波出力	2W以上 (8Ω負荷歪率10%時)				
寸 法		50H×140W×182D	50H×140W×205D	50H×140W×182D	50H×140W×205D	
重 量		1.3Kg	1.4Kg	1.3Kg	1.4Kg	

* [] 内は、[N] タイプ ナロー切替え時

付 属 品	多機能マイクロホン	1コ
	モバイルブラケット	1コ
	ブラケット止めネジ	2コ
	ネジ・ワッシャー	1式
	マイクハンガー	1コ
	電源コード	1本

(技術開発に伴い、変更になることがあります)

各部の名称と機能

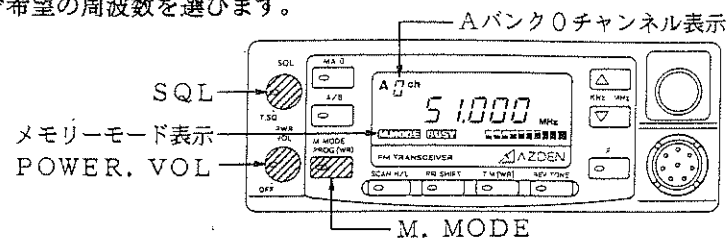


名 称	動 作																						
(1) VOL/POWER ボリューム/電源スイッチ	時計方向に回すと電源が入り、音量が大きくなります。 反時計方向に回しきると、電源OFFになります。																						
(2) SQL/T. SQ スケルチ/トンスケルチスイッチ	時計方向に回すと、スケルチが深くかかり、受信していない時の雑音が消えます。 反時計方向に回しきると、トンスケルチモード (オプションのトンスケルチユニットが組み込んである場合) になります。																						
(3) F ファンクションキー	押して“F”が表示中に④～⑫のキーを押すと、下表右側の動作をします。 他のキーが、押されないと約3秒後に解除され、“F”表示は消えます。																						
	<table border="1"> <tr> <th>“F”表示がない動作</th><th>Fキーを押し“F”表示中の動作</th></tr> <tr> <td>(4) UP (5) DOWN アップ/ダウンキー</td><td>メモリーモード “M.MODE”表示がある時 ダイレクトモード “M.MODE”表示がない時 周波数を1MHzステップでアップ、ダウンします。 メモリーチャンネル番号が、アップ、ダウンします。 周波数を5kHzステップでアップ、ダウンします。 (ステップは、プログラムモードで5-10-15-20kHzに変更できます)</td></tr> <tr> <td>(6) REV/TONE リバース/トーンキー</td><td>送信周波数と受信周波数を逆にします。 トーンエンコーダのON/OFFをします。 (プログラムモードで、トーン周波数を設定しておく必要があります)</td></tr> <tr> <td>(7) T. M/T.M [WR] テンポラリーメモリーキー</td><td>テンポラリーメモリー周波数を呼び出します。 再び押すと、元の周波数に戻ります。 テンポラリーメモリーに表示中の周波数を書き込みます。</td></tr> <tr> <td>(8) PRI/SHIFT ブライオリティー/シフトキー</td><td>ブライオリティーのON/OFFをします。 送信周波数がシフトします。シフト方向の切り替え、及びON/OFFをします。</td></tr> <tr> <td>(9) SCAN/H/L スキャン/ハイ/ロー/パワー</td><td>スキャンを開始します。 送信出力のH/Lを切り替えます。</td></tr> <tr> <td>(10) M.MODE/PROG [WR] メモリーモード/プログラム</td><td>メモリーモードとダイレクトモードを切り替えます 初期設定プログラムの変更及び、メモリーチャンネルの書き込みを行います。</td></tr> <tr> <td>(11) A/B ABバンク</td><td>メモリーのA又はBバンク切り替え、メモリスキャン時のA&B/A or B切り替えをします。</td></tr> <tr> <td>(12) MA0</td><td>メモリーAバンク 0チャンネルのワンタッチ呼出をします。再び押すと元に戻ります。</td></tr> <tr> <td>(13) マイクコネクター</td><td>* UP.DOWN.MA0キーは、PTTスイッチと共にマイクロホンにも付いています 無線機を前面から見た図 </td></tr> <tr> <td>(14) WIDE/NARROW 切替スイッチ</td><td>ナロー、ワイド オプションユニット組み込み時に使うスイッチです。 注) オプション組み込みますと技適対象外機種となります。改めてJ A R D保証認定を受けて御使用下さい。 ■ [N] タイプは、組み込み、技適取得済です。相手局の電波の帯域幅に合わせ、切り替えて運用して下さい。</td></tr> </table>	“F”表示がない動作	Fキーを押し“F”表示中の動作	(4) UP (5) DOWN アップ/ダウンキー	メモリーモード “M.MODE”表示がある時 ダイレクトモード “M.MODE”表示がない時 周波数を1MHzステップでアップ、ダウンします。 メモリーチャンネル番号が、アップ、ダウンします。 周波数を5kHzステップでアップ、ダウンします。 (ステップは、プログラムモードで5-10-15-20kHzに変更できます)	(6) REV/TONE リバース/トーンキー	送信周波数と受信周波数を逆にします。 トーンエンコーダのON/OFFをします。 (プログラムモードで、トーン周波数を設定しておく必要があります)	(7) T. M/T.M [WR] テンポラリーメモリーキー	テンポラリーメモリー周波数を呼び出します。 再び押すと、元の周波数に戻ります。 テンポラリーメモリーに表示中の周波数を書き込みます。	(8) PRI/SHIFT ブライオリティー/シフトキー	ブライオリティーのON/OFFをします。 送信周波数がシフトします。シフト方向の切り替え、及びON/OFFをします。	(9) SCAN/H/L スキャン/ハイ/ロー/パワー	スキャンを開始します。 送信出力のH/Lを切り替えます。	(10) M.MODE/PROG [WR] メモリーモード/プログラム	メモリーモードとダイレクトモードを切り替えます 初期設定プログラムの変更及び、メモリーチャンネルの書き込みを行います。	(11) A/B ABバンク	メモリーのA又はBバンク切り替え、メモリスキャン時のA&B/A or B切り替えをします。	(12) MA0	メモリーAバンク 0チャンネルのワンタッチ呼出をします。再び押すと元に戻ります。	(13) マイクコネクター	* UP.DOWN.MA0キーは、PTTスイッチと共にマイクロホンにも付いています 無線機を前面から見た図 	(14) WIDE/NARROW 切替スイッチ	ナロー、ワイド オプションユニット組み込み時に使うスイッチです。 注) オプション組み込みますと技適対象外機種となります。改めてJ A R D保証認定を受けて御使用下さい。 ■ [N] タイプは、組み込み、技適取得済です。相手局の電波の帯域幅に合わせ、切り替えて運用して下さい。
“F”表示がない動作	Fキーを押し“F”表示中の動作																						
(4) UP (5) DOWN アップ/ダウンキー	メモリーモード “M.MODE”表示がある時 ダイレクトモード “M.MODE”表示がない時 周波数を1MHzステップでアップ、ダウンします。 メモリーチャンネル番号が、アップ、ダウンします。 周波数を5kHzステップでアップ、ダウンします。 (ステップは、プログラムモードで5-10-15-20kHzに変更できます)																						
(6) REV/TONE リバース/トーンキー	送信周波数と受信周波数を逆にします。 トーンエンコーダのON/OFFをします。 (プログラムモードで、トーン周波数を設定しておく必要があります)																						
(7) T. M/T.M [WR] テンポラリーメモリーキー	テンポラリーメモリー周波数を呼び出します。 再び押すと、元の周波数に戻ります。 テンポラリーメモリーに表示中の周波数を書き込みます。																						
(8) PRI/SHIFT ブライオリティー/シフトキー	ブライオリティーのON/OFFをします。 送信周波数がシフトします。シフト方向の切り替え、及びON/OFFをします。																						
(9) SCAN/H/L スキャン/ハイ/ロー/パワー	スキャンを開始します。 送信出力のH/Lを切り替えます。																						
(10) M.MODE/PROG [WR] メモリーモード/プログラム	メモリーモードとダイレクトモードを切り替えます 初期設定プログラムの変更及び、メモリーチャンネルの書き込みを行います。																						
(11) A/B ABバンク	メモリーのA又はBバンク切り替え、メモリスキャン時のA&B/A or B切り替えをします。																						
(12) MA0	メモリーAバンク 0チャンネルのワンタッチ呼出をします。再び押すと元に戻ります。																						
(13) マイクコネクター	* UP.DOWN.MA0キーは、PTTスイッチと共にマイクロホンにも付いています 無線機を前面から見た図 																						
(14) WIDE/NARROW 切替スイッチ	ナロー、ワイド オプションユニット組み込み時に使うスイッチです。 注) オプション組み込みますと技適対象外機種となります。改めてJ A R D保証認定を受けて御使用下さい。 ■ [N] タイプは、組み込み、技適取得済です。相手局の電波の帯域幅に合わせ、切り替えて運用して下さい。																						

■ 受信

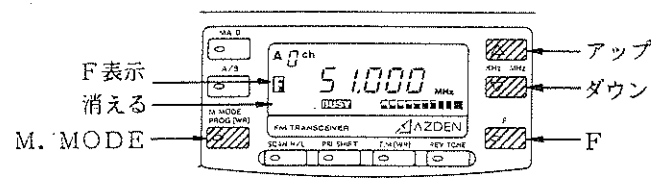
電源（13.8V）とアンテナの接続が終了したら次の順序で操作して下さい

- ・POWERスイッチをONにしますとLCDディスプレイ左下にメモリーモードである事を示す“M. MODE”の表示が出てAバンク0チャンネルの周波数が表示されますので、[M.MODE]キーを押してダイレクトモードにします。（[M.MODE]表示が消えます。）
- ・SQLツマミを左（反時計方向）に回しておきます。この時、カチッと音がする所まで回しきると、トーンスケルチONとなり、音は出ません。[T. SQ]表示位置より手前にしておきます。VOLツマミを右に回すと雑音または交信中の音声聞こえてきますので、雑音が聞こえている場合は、SQLツマミを右に回して雑音が聞こえなくなる位置に合わせます。
- ・[▲]または[▼]キーで希望の周波数を選びます。



周波数のアップ・ダウン

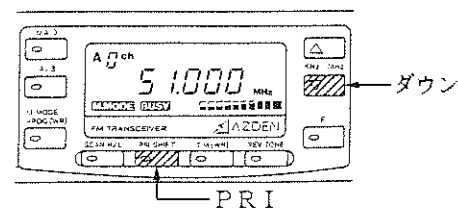
- ・[▲]または[▼]キーを押すと、表示の周波数がアップ・ダウンします。
 - ・[F]キーを押して、“F”表示点灯中に[▲]または[▼]キーを押すと表示の周波数がMHz単位でアップ・ダウンします。
 - ・[▲]または[▼]キーは押し続けると連続してアップまたはダウンします。
- *この時の受信周波数は、連続変化する直前及び停止後の表示周波数になります。



■ 初期設定

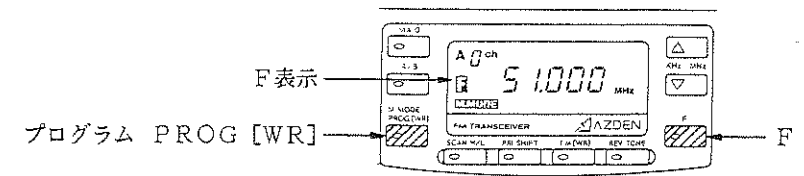
1. [PRI]と[▼]キーを一緒に押しながらPOWERスイッチをONすると、全てのメモリーチャンネルの値が消去され、つぎの値に初期設定になります。

① トーンデコーダー	00	・・・	(オプション)
② トーンエンコーダー	00	・・・	TONEナシ
③ スキャンモード	00	・・・	6秒後スタート
④ ステップ幅	・5	・・・	5kHzステップ
⑤ シフト幅	PCS-7501(H)	・5	・・・500kHzシフト
	PCS-7801(H)	・1	・・・100kHzシフト
⑥ メモリー内容	PCS-7501(H)	A0~A8, B0~B8	51.000MHz A9, B9 53.990MHz
	PCS-7801(H)	A0~A8, B0~B8	29.300MHz A9, B9 29.690MHz

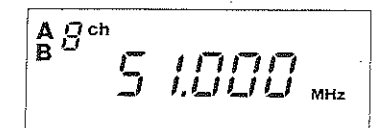


2. 初期設定を変更する場合は次の順序で操作してください。

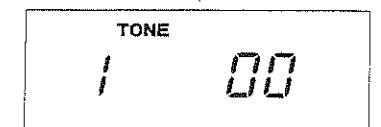
- ・POWERスイッチをONすると、“M. MODE”表示が点灯しAバンク0チャンネルの周波数が表示されるので、[F]キー・[PROG[WR]]キーと押し、プログラムモードにします。



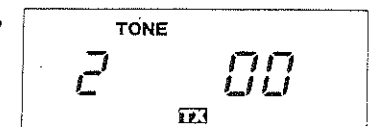
プログラムモードでは[▲]キーを押して行くと
A0~A9 B0~B9の各メモリーチャンネル、



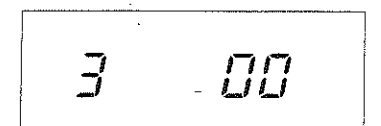
“1”ダイレクトモードのトーンデコーダー周波数、



“2”ダイレクトモードのトーンエンコーダー周波数、



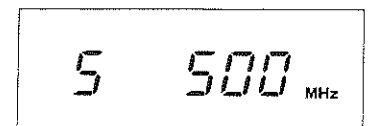
“3”スキャンモード、



“4”UP, DOWNのステップ周波数、

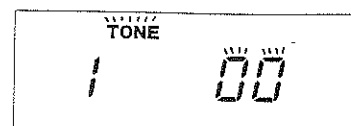


“5”シフト幅、

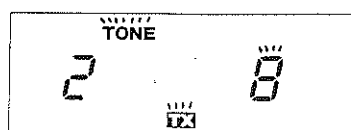


次に再びメモリーチャンネルA0の順で各設定モードになります。それぞれの設定モードでプログラムを書き込む時は、[PROG[WR]]キーを押して表示を点滅させ[▲][▼]キーで設定値にした後[PROG[WR]]キーを再び押すと書き込まれ、次の設定モードに移ります。

- “1” [▼]キーを5回押すと“1”が表示され、トーンデコーダー(オプション)の周波数書き込みモードになります。
[PROG[WR]]キーを押し、(オプションのトーンデコーダーユニットが組み込まれていない場合は、[▲]キー又は“00”のまま [PROG[WR]]キーを押し、書き込み、次へ移ります。)別表トーンコード表により、トーン周波数を[▲][▼]で選び、[PROG[WR]]キーを押し、書き込みます。

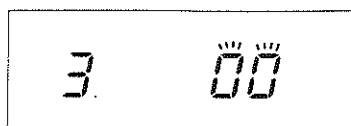


- “2” トーンデコーダー周波数の書き込みが終了すると、つぎに“2”が表示されトーンエンコーダーの周波数書き込みモードになります。
例として、88.5Hzに設定する場合は、[PROG[WR]]を押した後別表のトーンコード表により[▲]キーで“8”を設定後[PROG[WR]]キーを押すと書き込まれ、つぎの“3”が表示され、スキャン書き込みモードになります。

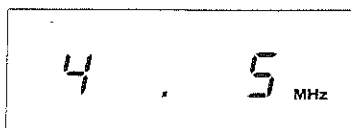


- “3” スキャンは3種類のモードがあります。
「■ スキャン・スキャンモードの種類」を参照下さい。

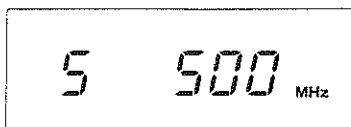
[PROG[WR]]キーを押すとディレイスキャン(6秒後スタート)の“00”が点滅し、つぎに[▲]キーで“3”が表示(3秒ホールド)さらに[▲]キーで“6”の表示(6秒ホールド)を繰り返すので、いずれかに決定後[PROG[WR]]キーを押します。つぎに“4”が表示され、ステップ幅の書き込みモードになります。



- “4” 周波数設定のアップ、ダウン動作のステップを決めるモードです。
5kHzステップになっていますので、変更する場合は[PROG[WR]]キーを押してから[▲]キーを押すと、“5→10→15→20”と順次変わりますのでいずれかに決定後[PROG[WR]]キーを押すと、つぎに“5”が表示されて、シフト幅の設定モードになります。



- “5” シフト幅は、500kHz (PCS-7501(H))又は、100kHz (PCS-7801(H))になっていますので変更する場合は、[PROG[WR]]キーを押してから[▼]または、[▲]キーで設定後[PROG[WR]]キーを押すと最初のメモリーAバンク0チャンネル周波数が表示され初期設定の変更は終了します。



*設定が終了しましたら、必ず[PROG[WR]]キーを押してからPOWERスイッチをOFF→ONして下さい。

注意 : トーン周波数は、別表トーンコード表により設定しますが、オプションのトーンスケルチ(トーンデコーダー)ユニットが組み込まれた場合と、組み込まれていない場合とは、トーンコードが異なります。

■ メモリーチャンネルの使い方

- ・メモリーチャンネルはAおよびBバンクごとに0~9チャンネルの計20チャンネルあって、[A/B]キーにより、A、BまたはA-Bバンク連続を切り替えることができます。
- ・各メモリーチャンネルごとに下記の順でデータをメモリーする事ができます。

受信周波数

トーンデコーダー周波数

送信周波数

トーンエンコーダー周波数

メモリーチャンネルの書き込み方

POWERスイッチをONにして、[F] [PROG [WR]] キーを押すと、プログラムモードになりメモリーチャンネル表示が点滅し、メモリー書き込みの準備ができたことを示します。

- ・[▲]または[▼]キーで書き込むメモリーチャンネルを指定します。
- ・もう一度[PROG [WR]]キーを押すと周波数表示が点滅して受信周波数書き込みモードになります。[▲][▼]キーで周波数を設定し[PROG [WR]]キーを押すと、受信周波数が書き込まれて、“TONE”および“00”が表示されトーンデコーダー(オプション)の書き込みモードになります。
トーンスケルチを使う時は、[▼][▲]キーでトーンデコーダー周波数を別表トーンコード表により設定します。それ以外の時は“00”のままにしておきます。



受信周波数
書き込みモード

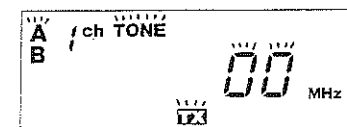


トーンデコード
書き込みモード

- ・つぎに[PROG [WR]]キーを押すと、周波数および“TX”が表示され送信周波数の書き込みモードなり、受信周波数と同じ周波数を表示します。送信周波数を[▲][▼]キーで設定後又は、受信周波数と同じ場合はそのまま、[PROG [WR]]キーを押しますと、メモリーされて、送信周波数が書き込まれ、“TONE”および“00”が表示されて、つぎのトーンエンコーダー書き込みモードになります。



送信周波数
書き込みモード



トーンエンコーダー
書き込みモード

- ・もし88.5Hzなら別表のトーンコード表により[▲]キーで“8”(オプションのトーンユニットが組み込まれていない時)を設定後、[PROG [WR]]キーを押すことによりメモリーの書き込みは終了し、つぎのメモリーチャンネルの書き込みモードに移ります。

*受信周波数および送信周波数の設定方法は、受信の頁の周波数のアップ・ダウンの項参照して下さい。

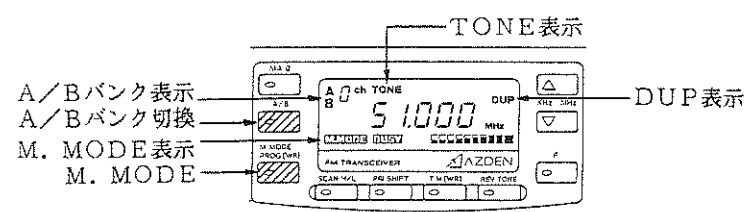
*設定が終了しましたら、必ず[PROG [WR]]キーを押してから、POWERスイッチを一旦、OFFして下さい。

メモリーチャンネルの呼出

- ・ダイレクトモードになっている場合は、[M. MODE] キーを押してM. MODE表示し、メモリーモードにします。
- ・バンクは[A/B] キーを押すごとに、[Aバンク] → [Bバンク] → [A-Bバンク]の順に変わります。
- ・A-Bバンクの時は、“A” “B” 両方とも表示し、現在呼び出しているバンクが点滅をしています。
- ・[▲] または [▼] キーで希望のメモリーチャンネルを呼び出します。キーを押し続けるとチャンネルが連続してアップまたはダウンします。

* 受信周波数と送信周波数が違う設定がしてあるメモリーチャンネルの場合は、“DUP” 表示をします。

* トーンエンコーダーが設定してあるメモリーチャンネルは、“TONE” 表示をします。



メモリーチャンネルは、次のように初期設定してあります。

チャンネル	A0~A8, B0~B8	A9, B9
送受信周波数		
PCS-7501(H)	51.000MHz	53.900MHz
PCS-7801(H)	29.300MHz	29.690MHz
トーンデコーダー	00 (トーンなし)	00 (トーンなし)
トーンエンコーダー		

トーンコード表

コード	周波数	コード	周波数
1 (1)	67.0Hz	21 (16)	136.5Hz
2 (2)	71.9	22 (17)	141.3
3 (3)	74.4	23 (18)	146.2
4 (4)	77.0	24 (19)	151.4
5 (5)	79.7	25 (20)	156.7
6 (6)	82.5	26 (21)	162.2
7 (7)	85.4	27 (22)	167.9
8 (8)	88.5	28 (23)	173.8
9 (9)	91.5	29 (24)	179.9
10 (10)	94.8	30 (25)	186.2
11 (11)	97.4	31 (26)	192.8
12 (12)	100.0	32 (27)	203.5
13 (13)	103.5	33 (28)	210.7
14 (14)	107.2	34 (29)	218.1
15 (15)	110.9	35 (30)	225.7
16 (16)	114.8	36 (31)	233.6
17 (17)	118.8	37 (32)	241.8
18 (18)	123.0	38 (33)	250.3
19 (19)	127.3		
20 (20)	131.8	00	

* () 内は、オプションのトンスケルユニットを組み込んだ場合のコード番号

送信

- ・送信する前に必ずSQLツマミをT. SQの手前まで左に回して、その周波数を受信して他局が運用していない事を充分確認して下さい。
- ・送信周波数と受信周波数が異なる時(“DUP”又は“+”, “-”を表示している時)は、“REV” キーで送受周波数を入れかえて送信しようとする周波数を受信チェックして下さい。
- ・マイクロホンのPTTスイッチを押しますと、“TX” 表示および“RFメーター” で点灯して送信状態になりますので、マイクロホンに向かって話して下さい。

H/L切り替え

[F] キーを押して“F” 表示が点灯中に[H/L] キーを押すと、“LOW” 表示が点灯してLOWパワー(1W)に切り替わります。繰り返すとHIパワー(10W)に変わります。HIパワー時の表示はありません。

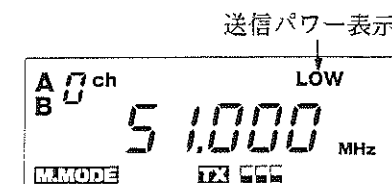
※ [H] 50Wモデルは、HI(50W)とLO(5W)の切り替えになります。

シフト切り替え

[F] キーを押して“F” 表示が点灯中に[SHIFT] キーを押すと[+] → [-] → “無表示” の順で変わり、送信周波数が受信周波数に対して初期設定されたシフト幅でシフトします。“無表示” はシフトしません。(シフトした周波数がアマチュアバンドを逸脱する場合はシフトしません)

トーン切り替え

[F] キーを押して“F” 表示が点灯中に[TONE] キーを押すと“TONE” 表示が点灯して初期設定されたトーンが送信されます。繰り返し押すと“TONE” 表示が消えてトーンは送信されません。



レピーター運用のしかた [PCS-7801(H) の場合]

レピーター運用する為には、トーンエンコーダー88.5Hzと-100kHzシフトの設定が必要です。(音声デジピーターの場合は、シフトせず送受同じ周波数にします)

- ・ダイレクトモードで運用する場合
初期設定でトーンエンコーダーの設定トーンコード“8”(88.5Hz)に設定し、シフト幅を100kHzに設定します。(シフト幅は初期設定で100kHzにしてあります。)運用時に、シフト切り替えを“-”に、トーンもONにします。
- ・メモリーモードで運用する場合使用するメモリーチャンネルに

受信周波数

トーンデコーダー . . . “00” (初期設定は、“00” になっています)

送信周波数 受信周波数の-100kHz

トーンエンコーダー . . . トーンコード“8”(88.5Hz 場合)

の順でメモリーします。運用時には、このチャンネルを呼び出すと、受信周波数と共にTONE, DUPが表示され、トーン及びシフトが動作することが示されます。

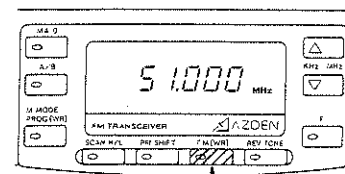
(■ メモリーチャンネルの使い方、書き込みを参照)

- 注意**
1. レピーターの周波数やトーン周波数は、レピーターマップ等を参考にして設定、運用して下さい。
 2. トーンコード番号は、オプションのトンスケルユニットを組み込んだ場合は変わります。トーンコード表を参照下さい。

■ テンポラリーメモリー

テンポラリーメモリーはA・Bバンク20チャンネルのほかに一時的にメモリーし、呼び出すことができるメモリーです。

- ・書き込み・・・[F] キーを押してから[T.M] キーを押すと、表示中の周波数がメモリーされます。
- ・呼び出し・・・[T.M] キーを押すと“メモリーCH”および“M. MODE”の表示が消えて呼び出します。アップ・ダウンさせるとその周波数からダイレクトモードに移ります。



テンポラリー

■ スキャン

・プログラマブルスキャン

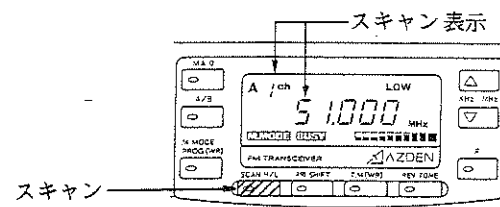
指定バンクのメモリー8チャンネルとメモリー9チャンネルの間をスキャンします。A-Bバンクを設定した場合は、Aバンクの8⇄9チャンネル続いて、Bバンクの8⇄9チャンネルの間をスキャンします。

- ・ダイレクトモード(“M. MODE”表示がない状態)にしてから[SCAN] キーを押すと、初期設定のステップ幅でスキャンを開始し、信号が入り、スケルチが開くと“BUSY”表示が点灯して設定モードにより一時停止します。

・メモリスキャン

A・BバンクまたはA-Bバンクの指定によりメモリーチャンネルをスキャンします。

- ・メモリーモード(“M. MODE”表示している時)にしてから[SCAN] キーを押すとスキャンを開始し、信号が入ると“BUSY”表示が点灯して設定モードにより一時停止します。



・スキャン解除

スキャン中に、PTTスイッチを押すか[▼]か[▲]または[F] キーを押すとスキャンは解除されます。(PTTスイッチを押してもこの時は送信状態になりません。送信する場合は、もう一度PTTを押しておして下さい)

・スキャンモードの種類

スキャンモードは、三種類あります。

- ・デイレイスキャン (信号を受けて停止後、6秒たつと再びスキャンを開始)
- ・ホールドスキャン (信号を受けて停止後、信号が無くなって約3秒後に再びスキャンを開始)
(信号を受けて停止後、信号が無くなって約6秒後に再びスキャンを開始)

設定がホールドスキャン中は、“HOLD”表示が点灯します。

* 設定方法については、初期設定の項を参照して下さい。

* 信号の有無は、スケルチ開閉状態と連動しています。

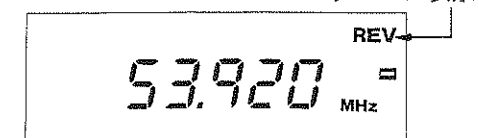
■ プライオリティー

[PRI] キーを押すと“PRI”表示が点灯して、約4秒に1回メモリーAバンク0チャンネル(MA0)の入感状態を監視して、信号が入るとピッ音が鳴って知らせます。



■ リバース

“DUP”および“+”か“-”表示が点灯中[REV] キーを押すと“REV”表示が点灯して、受信周波数と送信周波数が逆になります。

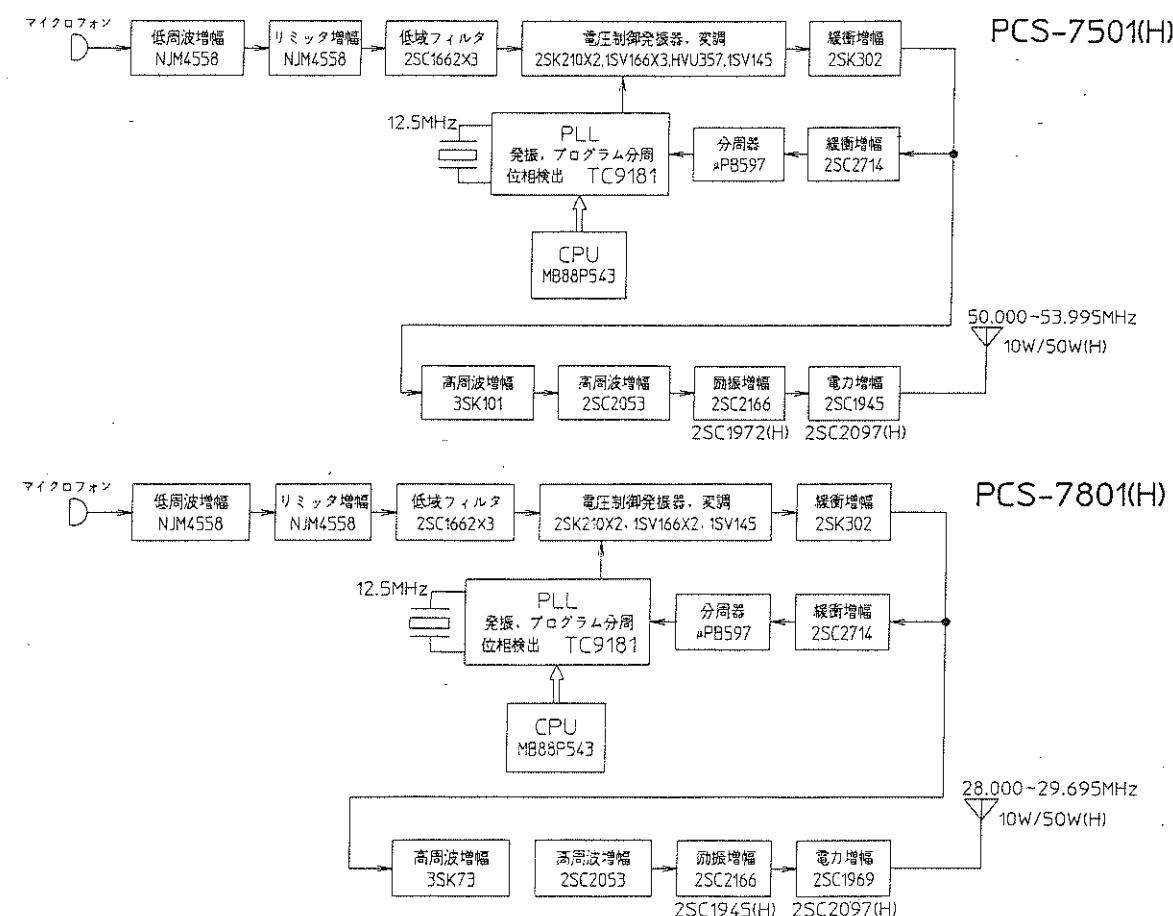


■ バックアップバッテリー

リチウム電池(CR-2032)でマイコンのメモリーを保持しています。

POWERスイッチを入れた時、以前メモリーした周波数が消えているようでしたら、リチウム電池の寿命(約5年)です。販売店または当社サービス部で電池の交換をして下さい。(有料)

■ 送信機系統図

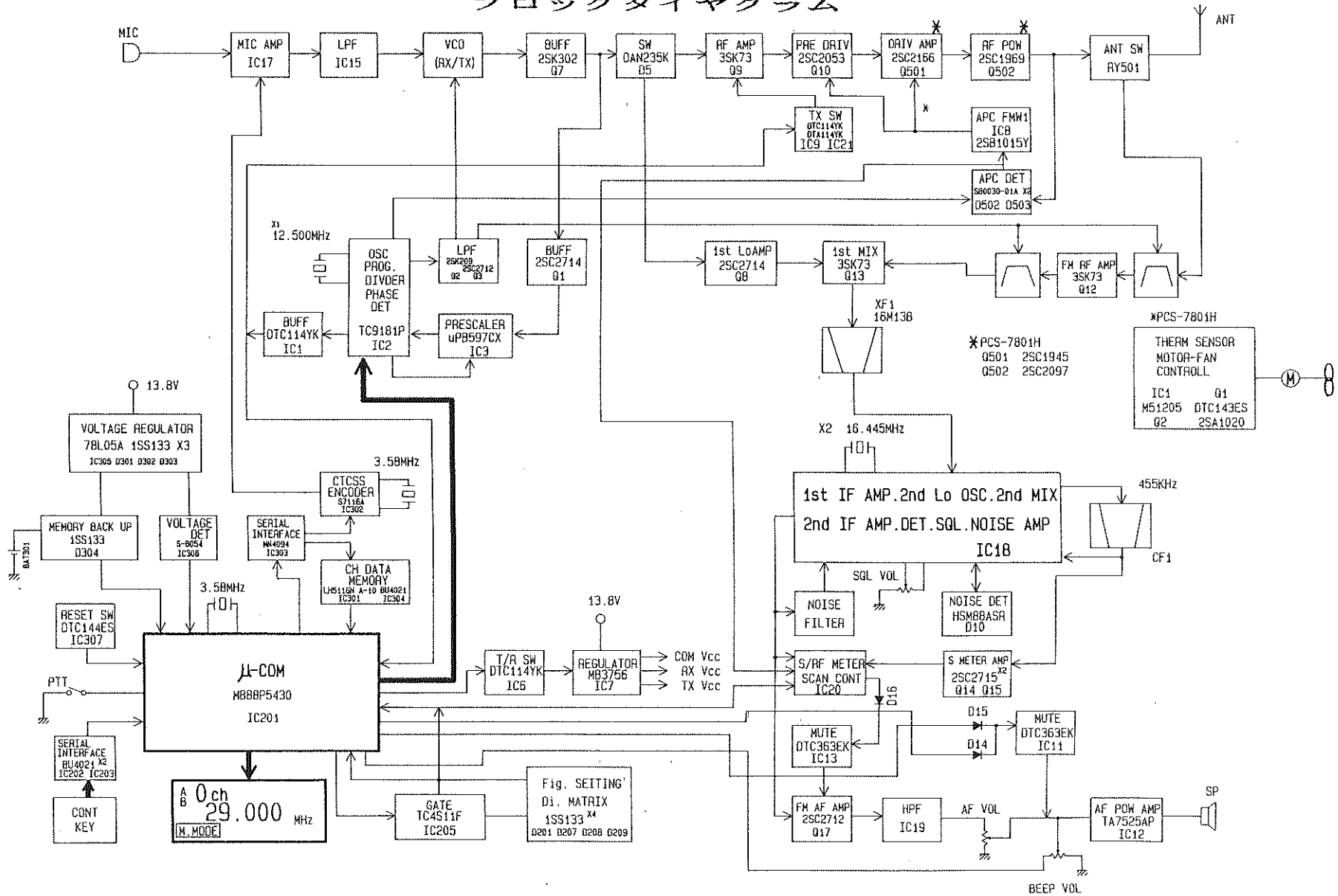




ブロックダイアグラム

PCS-7801(H)

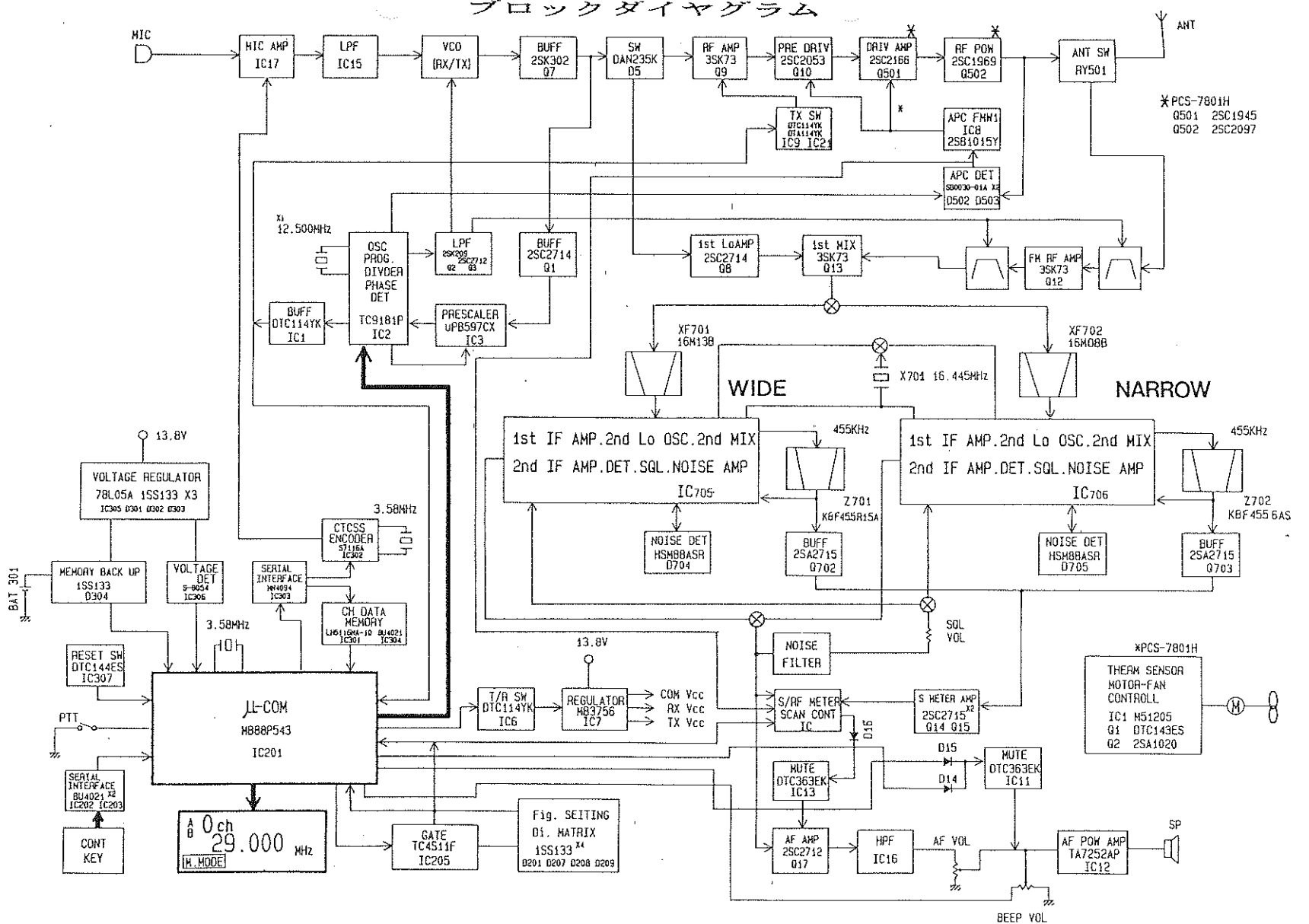
16



ブロックダイアグラム

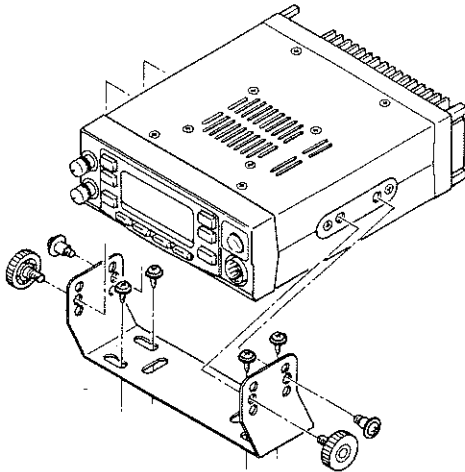
PCS-7801(H)[N]

17

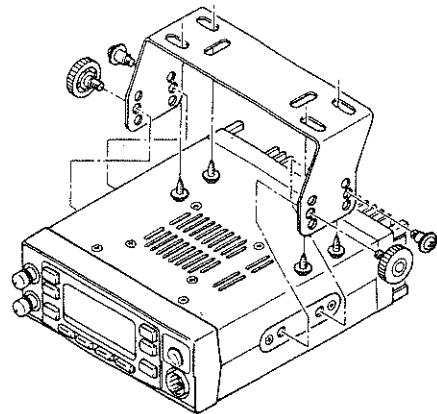


モバイルブラケットの取り付け図

- ・湿気や熱気の少ないところで、運転の妨害にならない位置に取り付けて下さい。
- ・連続送信をすると後部ヒートシンクは高温になります。通風の良い所に取り付けてください。
- ・後部から出ている電源コードの赤色には+側を、黒色には-側を接続して下さい。



フロア マウント



アンダーダッシュマウント

■ アフターサービス

- ・保証書は必ず所定事項の記入及び記載内容を確認のうえ大切に保管して下さい。
- ・保証書期間は1年間です。

正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合は、製品に保証書を添えてご購入店または当社サービス部までご相談下さい、保証規定に基づき修理いたします。

* アフターサービスのお問い合わせは・・・アツデン (株) 営業部
東京都三鷹市上連雀1-12-17
☎ 0422-55-5115
FAX 0422-55-0131

■ 無線局申請書 (工事設計書) 記入事項

機 種 名		PCS-7501	PCS-7501H	PCS-7801	PCS-7801H
技術基準適合証明番号		*			
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F 3 5 0 M H z 帯		F 3 2 8 M H z 帯	
変調方式		リアクタンス変調			
定格出力		1 0 W	5 0 W	1 0 W	5 0 W
終 段 管	名称個数	2SC1945× 1	2SC2097× 1	2SC1969× 1	2SC2097× 1
	電圧	1 3 . 8 V			

* 技適証明ラベルに記載されている番号を記入すれば、他の欄は省略できます。

アツデン 株式会社

本社 〒181 東京都三鷹市上連雀1丁目12番17号
営業部 0422-55-5115